

## 学校法人加計学園 ビジョン2026

我が国は急速に少子高齢化が進み、2040年には18歳人口は88万人まで減少すると予想されています。さらに地方では地域経済の縮小が進み、地方の活力を取り戻すための「地方創生」が叫ばれています。一方、科学技術の進展はめざましく、第4次産業革命とも言われるAIやビッグデータといった技術の急速な進歩により「Society 5.0」と言われる超スマート社会が到来し、人・モノ・情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急速に進んでいます。また、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は人命を脅かすだけでなく、これまでのあらゆるシステムや価値観に変革をもたらそうとしています。このような社会的状況の中で、時代を先導し持続的な発展を牽引できる人材や社会に新たな価値を創出できる人材の養成が、我が国の各教育機関に課せられた急務となっています。

学校法人加計学園は、創立者加計勉が定めた「**建学の理念**」（「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」）に沿って、社会が求める人材の養成に努めてきました。また、「**加計学園ミッションステートメント**」においては「全ての人が生涯にわたって学べる「教育の場」を提供し、教育を通して科学する心を育み、調和のとれた人格と国際性を涵養することによって、世界の平和に貢献できる人材を輩出する」ことを謳い、その趣旨に則った教育を実施してきました。

本学園が設置する大学、専門学校、高校、中学等は、設置の趣旨や背景は異なりますが、いずれも社会からの要請を受け時代のニーズに応えたものであり、その目的を果たすべく学長・校長のリーダーシップのもと、各々ビジョンを掲げ、ビジョンに向けたアクションプラン（中期計画）を着実に進めております。

本学園がこれからの変化の激しい社会で有為な人材を輩出し続けるためには、すべての教職員が学園のあるべき将来像を共有している必要があります。ここに「**学校法人加計学園ビジョン2026**」を定め、学園全体において一体感をもって種々の施策を展開していきます。

### 1) 教育・研究の推進

社会が求める人材に必要な能力とは、時代の変化への適応だけではなく、新たな時代を先導していく力であり、換言すれば社会の持続的な発展を牽引するための柔軟かつ多様な能力です。本学園は中等教育及び高等教育の一端を担っていますが、いずれの教育段階においても、知識・理解と汎用的な技術に加え、今後の超スマート社会を生き抜くために必要な論理的思考力や感性を養う全人教育を展開していきます。さらに、学びの主体は学生生徒であることを踏まえ、本学園の教育においては学修者本位の教育へと質的転換を図り、一人ひとりが成長を実感できる学修成果の可視化に取り組んでいきます。

また、質の高い教育の基盤となる研究においては、未来社会を広げる科学技術の発展に資する研究課題の推進を重要施策として掲げ、研究力強化と併せ外部資金の獲得にも取り組みます。

### 2) 学生生徒の支援

社会が急速かつ複雑に変化していく中、本学園に迎える学生生徒も多様化し、言語・宗教が異なる留学生を始め、社会人で学び直しをする者、経済的支援が必要な者、障がいを持つ者、性的マイノリティなど様々な背景や悩みを抱える学生生徒が集う時代となっており、教職員側の対応にも多様性が求められています。本学園は、すべての学生生徒が社会で活躍できる人材へと成長することができるよう、修学支援、キャリア形成支援などにおいて個を尊重した支援に取り組みます。

### 3) 地域社会との連携

地方を拠点とする本学園は、地域社会の自律的発展の一翼を担うために積極的に地域課題に取り組み、PBL(Project-Based Learning)等により地域社会と連携した教育を展開します。また、大学が持つ特色と強みを生かした事業に人的資源と予算を重点配分し、自治体との連携及び地域産業界との連携によって「地域連携プラットフォーム」を形成し、そこで得られた研究成果を社会に還元・実装することにより持続可能な社会の実現に寄与します。

### 4) 国際化の推進

本学園が創設期より一つの柱としてきた「真の国際感覚を身につけた人材を養成し、国際社会の平和と発展に貢献する」の実現に向け、質の高い国際交流事業を継続・深化させていきます。様々な体験を通じて学生生徒の国際性を涵養するとともに、国際的に通用する教育プログラムの開発・実施及び運営体制の質向上に取り組みます。また、地域における国際拠点として、日本国内で活躍できる人材となる外国人留学生の育成、グローバルマーケットを見据えた地方の中小企業への技術支援など「グローバル」な取り組みも推進していきます。

### 5) DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

今回のコロナ禍は教育機関の意識と価値観に大きな変化をもたらしました。従来、対面授業の補助手段と見なされていたオンライン授業が日常化し、工夫次第では対面授業に劣らない効果が上がると認識されるようになりました。今後、教育現場では種々のデジタル化が急速に進むと予想されます。本学園でもDXを強力に推進します。具体的には、入学から卒業後に至る各段階の記録、中学から大学院まで一貫した成長の記録をデジタル情報として一元的に管理・蓄積し、これらを活用して一人ひとりが自らの能力と志向、学修成果を認識し、目標実現に向けた自律的な学びを確立できるようにします。

### 6) ガバナンス体制と内部質保証システム

本学園は、改正私立学校法及び「**加計学園大学ガバナンス・コード**」の趣旨を踏まえ、学校法人の永続性の義務を果たすため自律的なガバナンスの改善・強化と併せて経営基盤の強化に努めます。また、学校法人として社会に対する説明責任を果たし、社会から信頼を得る運営をしていくため、内部質保証システムを十分に機能させ、教育研究、組織運営などの状況について継続的に点検・評価し、絶えず改善・向上に取り組むことで公教育を担う学校法人としての責務を果たします。各設置校においても、内部質保証システムを的確に機能させるとともに、各々の強みや特色、将来の発展の方向性を見定めた上で、社会の変化に柔軟に対応できる体制を整えます。